

校友会報

109



目次

学園創立101年
21世紀にむけて
新たな飛躍

足立 剛一	1
高山 英華	2
山崎 隆一	3
富所 良一	3
内山 太	4
南迫 哲也	5
森山 健次	6
高等学校長退任のご挨拶 遠藤 鎮雄	7

高等学校長就任のご挨拶

黒谷 義雄	8
近況報告	9
学校法人・大学 専門学校・高等学校	12
支部だより	12
昭和62年度支部総会報告	13
支部総会詳報	13
第8回全国大会(富山大会)	14
参加のお誘い	14
部会報告	16
総務部・財務部・企画部 事業部・組織部	

校友会だより

学園創立百周年記念事業 募金計画について	18
顧問・相談役の推せん、 表彰	19
総会開催のお知らせ	20
昭和62年度事業報告書	20
収支計算書	21
貸借対照表	21
財産目録	21
昭和63年度事業計画(案)	22
収支予算書(案)	

● 学園創立101年 21世紀にむけて 新たなる飛躍



校友会 会長

足立 剛一

陽春の候、会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は校友会の活動に多大のご協力を賜りありがとうございます。さて昨年は皆様のご支援により学園創立100周年記念式典を盛大に挙行することができました。まことにありがとうございます。

新宿校地再開発事業の第一期工事昨年7月吉日に地鎮祭を行い、現在昭和64年9月完成に向かって着々と進行しております。申すまでもなく本再開発事業は過去に例のない開発手法によるもので、その過程に於いては幾多の問題が山積しております。そのために本年2月、再開発本部長に松浦隼雄常務理事が就任され「新宿校地再開発事業の新展開」という開発理念にそって産学協同による再開発事業の模範的モデルを構築し、街区全体を学園都市とするという方針を発表されました。特にこの再開発事業による、新しい都市型学園づくりを成功させるためには、校友会の皆様がたをはじめ関係各位のご理解とご協力を賜らなければなりません。又、昨年の春以来、学園創立100周年記

念募金事業にあたり、会員の皆様にお願いましたところ、経済環境も諸般の事情により、良いとは申せませんなかを全国の会員の皆様のご理解とご協力により、ご援助をいただきました。まことにありがたく厚く御礼申し上げます。(募金状況の詳細につきましては18頁をご参照下さい。)

尚、記念募金事業の期間は5年間ありますので今後とも引き続きご協力を賜りますよう宜敷くお願い申し上げます。幸い会員の皆様のご協力により会の運営も日増に整い、特に今年度は全国各地に於いて、支部総会等が行なわれ、支部活動も一段と充実し、円滑な支部運営が行なわれるようになりました。ここに支部の皆様方に感謝申し上げ、今後とも支部活動にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

私共も100年という長い歴史のなかで、幾多の困難な時期を経て、今日の礎を築かれました諸先輩をはじめ、教職員並びにご援助をいただいた多くの方々に敬意を表すと共にさらに21世紀に向かって期待される学園造りに努力いたします。今後ますます科学技術や産業組織が高度化されるなかで、わが学園も高度技術社会に貢献しうる人材を教育することが最も大切なことであると思います。将来の大いなる学園の発展を期待すると共に皆様の幅広いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人工学院大学 理事長

高山 英華

工学院学園も昨年無事に盛大に百周年記念式典を行うことが出来まして御同慶の至りであります。

また新宿の再開発事業も昨夏の7月7日から第一期工事に着工して建設を進めております。今後多少の変更はあるかも知れませんが第二期、第三期と工事進展してゆくものと思います。

今後はこの新しい都心型大学の内容を高め充実させて学園全体の発展に努めなければならないことにります。

新宿と八王子を含めた工学院学園の新しい発展はわがくにの工学教育に独自の特色を打ち出し、輝やかしいものになければなりません。それは将来わたる国際化に対応し、生涯教育を含み、技術革新をさらに進め、よい意味での産業共同の実をあげることだと思います。

学園の発展には、どの学園でも、その校友の団結と経済的基盤の確立が必要です。

幸い100周年記念事業の遂行のために広く校友の皆さんの募金をお頼みしており、すでに多数の方から多くの寄附を頂いておりますが、今後とも

さらに御援助をお願い申し上げたいと存じます。

また、この機会に校友の皆さんの正確な名簿の作成と相互の連絡をさらに密なものとして頂き度と思ひます。

私も旧制の成蹊高校の出身ですが、成蹊学園の校友会は、現在の小学校、中学校、高等学校、大学の各分野のみならず過去に存在した各種の学校の出身者をも網羅して実に中広い団結を計っており、献身的な校友の永年にわたる努力によって、堅実な社団法人を構成して、学園に対して物心両面にわたって多くの貢献をしており、また校友同志間の連絡もきわめて中広く密接なものを感じております。

工学院学園の校友会も、過去、現在の各種学校の卒業生を広く結集して新しい新宿拠点を十分に活用していただき度と思っております。

何分新宿の再開発事業はわが国で始めて超高層都心型大学であり、現在の授業を続けながらの再開発事業でありますので今後とも困難はあると思ひますが、必ず成功すると思ひます。これは新しい特定街区の方式によって、第一生命、日本生命などの地権者と一体になっての、開発事業でありますのでその点をも御了解の上、一層の御協力をお願いしたいと思ひます。

最後に重ねて、校友会の皆さんが広く力を結集されて、健全な社団法人として発展され、学園と一体になって御活躍されることを心から願うものであります。

(63. 2. 29記)

●学園創立101年 21世紀において 新たなる飛躍

機械工学同窓会 会長 山崎 隆一

我が母校は、複眼構造の都心型大学学園を目指して、新宿校地再開発に取り組んでおります。本学園の再開発は異例の新機軸として、全世界に未だかつて類例のない新学園を創造しようとするものであります。それ故幾多の困難が山積致しております。校友諸兄をはじめ関係各位の心からなる御協力を切にお願い申し上げます次第であります。

計画によれば、昭和64年9月大学棟完成、昭和67年9月中層棟（専門学校棟）及びオフィス棟完成、昭和68年12月広場下完成の運びとなっております。

松浦雄建設担当常務理事（昭和63年2月就任）は、「何の為に新宿に居座って再開発をやるのか。それは来たるべき私学経営の困難を突破する為に、都心型学園の実を挙げねばならないからである。都心型大学学園とは都心に高層ビルを建設することではない。インテリジェント大学として魂を導入することである。あらゆる知恵をこゝに具現化

することこそ肝要である。」と述べておられます。

科学の発展や技術の進歩を促がす開かれた学園、産学協同の実を挙げる生涯教育のあり方、世界の中の日本として如何にすれば国際社会に貢献し得るか、等々。全世界の複雑なニーズに対応する為、あらゆるアイデアが新学園像に盛り込まれることを期待してやみません。独創的な学園像の創造こそが母校発展の礎となるのではないのでしょうか。

100年の雌伏を経て我が母校は、21世紀に向かって雄飛せんとしています。校友の皆様各位が一粒の種をお蒔き戴き（募金活動への御協力も含めて）世界に秀い出る21世紀型の新学園像を、自からの手で創造しようではありませんか。伝統ある我が母校工学院大学学園の将来に、輝かしい夢を馳せ乍ら。

校友のみなさん、力をあわせましょう。
21世紀に向かって「一歩前進」です。

応化会 会長 富所 良一

本学園は、昨年10月31日で創立100周年を迎え、盛大にその祝典を終えました。

この100年の間、当事の日本工学会・各業界・政府の要請により誕生した工手学校をルーツとする本学園は、種々な学校形態の変遷を経ながら幾多の苦難を乗り越えて来ました。その中で工学院大学は、戦後間もない昭和24年4月、私学の雄である早稲田・慶応等の総合大学と共に、学制改革により新制大学となり、理工系単科大学として再生しました。昭和27年3月に、大学1回生を世に送り出してから今年、第37回目の卒業生を送り

出し、学園全体としては、約5万名の卒業生を社会へ送り出したこととなります。因に私共の応化会に係わる化学系学科の卒業生は、その凡そ17%の約7千名余りに相当します。

なお、昨年応化会としては、独自に100周年記念事業の一環として会員名簿を刊行しました。

さて、愈々、新宿校地も昨夏7月より高層ビル建設の着工の運びとなり、学園将来計画が着々と進展している現状を見るにつけ、工学院大学の21世紀へ向けての躍進は、私共卒業生全員が期待し、誇り得るものと思います。これらの集大成の暁は、

社会に自慢できる世界に類例のない学園環境が新都心部に誕生することになり、学園関係者共々、同慶の至りに存じます。

このよりよき展望を想う時、卒業生としては、残されている100周年記念事業はもとより学園将来計画に積極的に協力しようとの衝動に駆られるのは、私一人ではないと思います。この時、残された一連の記念事業と共に、忘れてはならない21世紀に向けての事業としては、校友会ホールの実現化です。これは卒業生が来校の時、寛ぎと団欒の場を与え、学術に、技術に、または、ビジネス等に卒業生相互ならびに、学園関係者各位と、卒業生間の交流を図り、親睦社交の場とするサロンとして利用することになります。

このホールが有意義に活用されることを考える時、今から楽しみにしている次第です。校友会ホールを是非実現したいと願うのは、私一人ではない

と確信しています。建設的なご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

終わりに、学園の創立100周年記念事業にご賛同、ご協力賜わり、募金活動に、卒業生と学園当局が一致して、この多事多難を乗り越え、21世紀に向けて大いなる躍進の実を挙げますことを、念願して止みません。

応化会第35回定期総会

日 時	63年6月26日(日) 午後1時～
会 場	①工学院大学8F第一会議室 ②校友会会議室
記念講演	工学院大学工学部化学工学科 助教授 工学博士 五十嵐 哲先生
予定演題	“固体表面での水分子の活性化と触媒作用”
電 話	342-2064 (校友会 事務局)

電気同窓会 会長 内山 太

校友の皆様お元気に活躍のこととお慶び申し上げます。

我が工学院大学は、創立100周年を迎え今や第2世紀に向けて躍進すべく新宿の地に大学としては他に例をみない高層棟を建築しています。誠にたのもしい大学になるものと期待し喜んでおります。このビルの建築に先だって八王子に、60億余りの予算をつぎ込んで、都心大学となるべき準備をしてきました。

新宿の高層棟は、諸先輩の築かれた歴史と、これから工学院で教育を受け卒業していく若者との、シンボルとなるべきものでなければなりません。数多くの先輩諸氏が評議委員会で長時間無報酬で検討してきました。

然し、本当の意味では残念な結果に終わっています。

また、諸先輩の行動のおかげをもちまして新たな発想を取り入れ軌道修正し建設に邁進しているのであります。

経済・科学技術・工学等の、めまぐるしく進歩した今日、或いは未来を予想して時代に良く適合した大学ビルでなければならない。そして卒業生の一層の努力のみならず教職員が共に、これからの学術・工業技術に、如何にして工学院大学の名声を上げるかを熟慮し、従来の如き教育と異なった教育方式、或は学科群を構成する必要があると信じます。

幸い再開発計画は情報源を世界にもらした第一

生命・日本生命と共同開発を行う学園街区であります。また、世界経済の中心となる東京、その中心となる都庁が、すぐ隣接する所に移転して来ることも決定し、入札も済んでいます。当地の利点を十分に発揮し、あらゆる情報源を教育に生かす方針こそが、我が工学院大学の使命であります。これからの工学院大学の一世紀は真価を問われる世紀であります。不必要な、安易な教育を行えば、必ず自然淘汰されます。日本での教育のみならず、これからは世界の教育に適合した教育方式をみだし、母校が、大いに発展することを願う所あります。

建築学科同窓会 会長 南迫 哲也

建築学科同窓会では、昭和59年7月7日(土)から「学園将来計画に関する研究会」を行って来た。8名の委員が熱心に問題点の抽出にあたり、討議が重ねられてきた。そして、昭和60年2月9日には「学園将来計画の経過と考察資料 No.1」が公表された。第一に昭和52年からの工学院で行われた施設計画の経過を客観的に報告している。第二に超高層建築であってはならないとし、その危険性を警告している。第三に、土地資産の切り売りが開発屋に委かされると大変な損害が学園に負われることを説明している。第四に学園将来計画委

また新しい高層ビルの建築に共なって校友会がより発展すると共に学校当局がより卒業生にしまれるよう工夫され、更に良い教育のフィードバックが実社会に行われるように望むものであります。

電気同窓会総会

日時 63年5月29日(日)
会場 校友会会議室(新宿校舎8階)

員会が将来像を具体化しないで容器のみをつくらうとしていることに対して抗議をしている。

抗議文というものは、いつの時代でもうとんじられるものであろうか? 校友会でも一部の意見として当時はしりぞけられてしまったが、ものごとの理が判る人であったならば、いかに理不盡なことが強引に行われたかを理解できたのであった。いや多くの人が判っていないがらむびたすら、「ことなかれ主義」だけが優先し、問題点は先送りとなってしまったのであった。

建築学科同窓会は、校友会の御推薦もあったの

賛助会費取扱い規定

本規定は定款第6条(賛助会員この法人の目的事業を後援し、5万円以上の寄付金を寄贈した者)の他本会員の賛助会費について定める。

第1条 賛助会費を次の条件で分納することができる。

1. 毎年2000円以上を納入すること。(2000円を単位として増額できる)
2. 合計が5万円以上になるまで毎年払いにつづけること。

第2条 賛助会費は次のように使用する。

1. 70%は積立てて目的を定めて理事会の承認を得て使用する。
2. 30%は交付金として納入者の所属する支部へ交付する。
3. 交付を受ける請求期限は納入年度の翌年度より2年とする。

第3条 交付金は明細を年1回支部長に通知し支部長の請求により交付する。

61・1・24 第3回理事会改訂

で、学校法人評議員の中の予算検討・建設の両委員会に3名が参加し、いわゆる「KDN街区再開発計画」についての調査報告書を鋭意まとめ上げた。そこでは第一に建物の所有関係がアイマイであり、第二に工学院の残りの土地の保全さえもが脅かされていること、第三に、収益事業計画が縮小されていること。したがって第四に維持管理費

専門学校同窓会 会長 森山 健次

昨年昭和62年は、工学院大学創立100周年を迎へ、その祝賀会が10月31日、京王プラザホテルで、教職員及び卒業生OBなど、多数招待されて盛大に挙行されました。

私達の母校ではその100年を契機に、数年前から大事業が計画されて来ました。10月の記念日の数ヶ月前、7月7日には新宿再開発の地鎮祭が槌音高く取行われました。長い計画期を経て、新宿校地街区を、日本生命、第一生命と協同で開発するためです。学園の建設費だけで200億以上が予想される大工事です。この金額は大変な額であり本校の平年度会計予算の数倍に匹敵するものと思います。この開発には、工事期間中も授業は休まない(但し大学2部は一時募集停止)。開発の費用は借入れしない。開発のために敷地等は売却しないという。画期的な計画で出発しております。これはまさしく時代の先取りであり、大変な幸運のめぐりあわせと思います。資金の運用や方法・計画には夫々意見の異なる所がありますが、協力される企業の好意と、これの交渉等に当たった、母校の先生方の大変な御努力があったために、この幸運を呼ぶ事が出来た事と思います。この計画はぜひ成功させて21世紀の新しい日本の礎としなければなりません。

がまかなえる見通しが立たず、前途に暗雲が立ちこめていることを指摘している。

新宿校地再開発の本部長が理事長から評議員選出の松浦準雄氏に変わった。「工学院の財産を保全すること」を約してなられたが、前途多難であることは、いまや皆が知っていることなのである。

(1988年3月14日記)

今年創立101周年で新しい百年に向っての1年目です。新宿再開発に依って新しい箱が建設され、昭和66年度には完成します。入れもの、完成もさることながら、中味の育成が大変だと思えます。どんなに内容の優れた学校にするか、いわゆる教育と云うソフトの問題です。外観以上の教育の実をあげなければいけないのです。過去百年間育てて来た先輩諸兄の何倍も良い学校にしなければならないのです。そのために何をしたらよいか良く考えて行動しなければならぬと思います。これからの歴史は過去の2倍～3倍の早さで造られて行くと思います。毎日を大切に、スピーデーに解決しないと取残されることになります。皆さんの英知を結集して新しい時代のより良い母校の実現に協力しようではありませんか、最後に皆様の御健康と益々の御発展を心からお祈り申し上げます。

専門学校同窓会総会

日時 63年6月5日(日) 午後3時～
会場 ホテル・パシフィック(品川駅前)
総会:早坂 宴会場:藤波
電話 445-6711

● 校長退任のご挨拶



前高等学校長

遠藤 鎮雄

私は3月末を以て、高等学校から去ることにいたしました。突然のようでありますが、かねてからの決心に基づいてのことです。

勤続すること42年、校長としての勤めも14年間に及びました。定年まではなお3年の余裕がありますが、皆様のご高庇を蒙ってこそ永く勤めさせて頂けたという感謝の念と、同時に不敏の身をも省みることなく、いささか勤め過ぎたという省観のなかで、世代の交替を計り、人心の一新をも念願し、愛してやまない高校の一層の発展を期待しての引退であります。この機会に、これまでのご懇情を深く記録、改めて万謝申し上げる次第でございます。

退職の決意は2年程前に定まりましたが、正直のところ、学校への未練愛着、生徒への思いが、毎日のようにこれを元に押し返して、迷いの年月を送ってきました。決意が揺れに揺らいで、恥ずかしいことながら、時には懊悩の域にも入ったくらいでした。

しかし仮にあと3年校長歴を加えますと、17年間の校長生活となります。これはよしんば善政であったとしても、一種の独裁体制であり、私の信条に大きく反します。やはり後髪の引かれる思いを堪え、公人として校長として、この条理に従い、辞任することを至上のものとしなければならなかったのです。

ただ、常務理事会のご配慮により、今後も学園並びに高校に、多少のかかわりを持つことができそうですので、この点はまことに有難く、もしそうなれば、これからの生き甲斐の支柱としていく所存でございます。

思えば42年間という歳月は、まさに高校の最初からの歴史そのものでもありました。この原稿の依頼主の広報部長の大谷さん、この会の会長の足立さん、ともに私の直接の教え子、お三方とも第1期生であります。

こうした意味からすれば、高校とともに歩み続けてきた私にとって、高校の今後の歴史とは全く無縁となるので、万感の思いのこみあげてくるのを、今感じて止まないものがあります。勇退という名分を掲げながら、こうした繰り言が出てくる心情を、ご海容下さい。

ところで校友会とのつながりも随分永くなりました。旧校友会の学友部副部長、旧学園同窓会の副会長をやらせて頂き、この面でもすでに古参であります。一昨年でしたか、現校友会の顧問という呼称を賜りましたが、この与えられた名誉ある立場を、これからは一段と大切にさせて頂こうと、思っております。

なお私の後任は、黒谷義雄現教務主任の起用が決定いたしております。私同様のご鞭撻お力添えを切願申し上げます。また私に対しましても、従前のご芳情を賜わりたく存じております。

最後になりましたが、伝統ある工学院大学校友会の更なるご発展と、役員、会員皆様のご清安をあつく祈念するものであります。

(63. 3. 7記)

● 校長就任のご挨拶



新高等学校長

黒谷 義雄

この4月、図らずも前校長の遠藤鎮雄先生に請われて校長に就任致すことに相成りました。実は、前教頭の宮越美知夫先生がこの3月に定年でお辞めになったので、校務運営上の混乱を避けるためにということで昨年4月教務主任への就任要請をお受けしたわけです。そんなわけで教頭までは止むを得ないかなと思っておりましたが、まさか校長ご自身が同時にお辞めになるとは夢にも思っておりませんでしたので大変戸惑いました。もう一期続けて下さいとお願いしたのですが後進に道を開くのは今が時機だということで押し切られてしまいました。ことここに至っては最早ご指名を頂いたことに感謝し、多くの人々によって築き上げられたこの校風を汚さぬよう、また多少なりとも学校発展に寄与し得るよう頑張らなければと覚悟した次第です。

振り返ってみますと昭和28年、当校に数学科教員としてお世話になって以来35年、山口与平校長、中野八十八校長、佐藤孝次校長、鈴木実校長そして遠藤鎮雄校長と5代の校長の下で建設課程1年の担任を皮切りに、3階建ての旧校舎だけの時代から2階建てブロック造り別館造の時代、それを新館8階建てに建て替えた時代そして大学教養課程の八王子移転、続いて高校の八王子移転、さらに八王子整備計画、新宿再開発という学園発展の流れの中で過ぎて来たわけですが、今校長をお引き受けするに及んで時の流れを大きく実感しているところです。そして、これまで歴代校長をはじめ多くの先輩諸兄から受けたご指導の数々を改めて思い出し感謝するとともに、それらのお教えをもとに頑

張らなくてはとの気持で一杯です。この4月からは教頭には竹花有也先生を、また教務主任には平田和実先生をお願いして校務運営を始めることに致しました。またご承知のように本校の教育方針は、勤労を尊び、真理を愛し、責任を重んずる人物を育成することですが、そのためには健康でしっかりとした基礎学力をもち、節度ある生活態度を身に付けていることが必要です。そのような考えから校務分掌を総務部、教務部、生徒指導部、進路指導部、事務部の5つを柱にして組織し、それらの機能を充実して参りたいと思っています。

すでに前校長のご努力と理事会、評議員会のご理解で7月より建築科実習室の建て替え工事が始まりますし、来年3月には100周年記念事業による総工費6億を掛けての高校体育館の建設着工が予定され、本年6月頃までには建設計画案の確定をしなければなりません。教職員一同希望に燃えています。また入学生のレベルも年々上昇してきておまして、生徒の指導にも意欲を燃やしています。

さて、校友の皆様には母校発展のために常々ご支援を頂き大変感謝致しておりますが、今後ともご指導、ご鞭撻、ご支援下さいますようお願い申し上げます。(63. 3. 14記)

高校同窓会総会

日時 63年6月18日(土) 午後5時～
会場 京王プラザホテル 4F 雅の間
電話 344-0111

尚、本総会の後に遠藤鎮雄前校長・宮越美知夫前教務主任両先生の謝恩の集いを開催します。

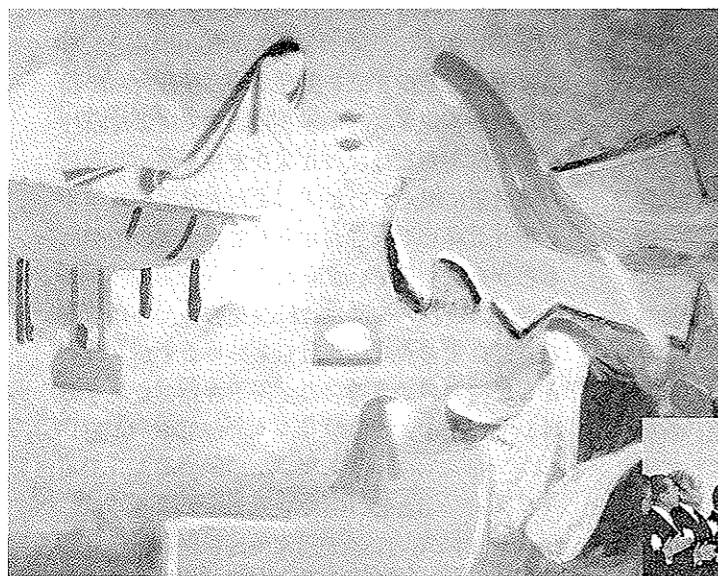
●近況報告

学校法人

本学園関係者の叙位・叙勲等受章について

(昭和62年4月-12月)

窪田雅男機械系学科兼任教授が勲二等瑞宝章、山口章三郎名誉教授が勲三等瑞宝章(昭和62年春)故長島忠恕元評議員が従六位・勲四等旭日小綬章、故剛崎章二元総務部長が従四位(8月10日付)、高等学校山下慶人教諭が昭和62年度東京都知事表彰(学校教育功労者、10月1日)、高等学校自然科学部(顧問後藤道夫教諭)が第31回日本学生科学賞東京都審査において「最優秀賞」、中央審査において「読売新聞社賞」、故森島恒男名誉教授が正五位(12月21日付)を各受章しました。



百周年記念式典の席上、寄付を頂いた方々に感謝状が送られた

下記のとおり寄付がありました。

学園創立百周年を記念して、学校法人玉川学園から玉川学園出版部刊行書籍352冊、東京銀行新宿支店から帆船模型1点、第一生命保険相互会社から銅花瓶1点、渡辺貞子殿から額装絵画100号1点。電気通信産業連盟から42万円、ビッグモールド(株)から高等学校事務室用として東芝カスタムエアコン3台。大学後援会から白樺湖学寮カーペット費用として73,100円、ピンク電話設置費用として181,700円、軽井沢学寮用としてスリッパ30足、タオル干し、富士吉田セミナー校舎冷凍冷蔵庫及び一槽式フライヤー費用として699,000円。故佐瀬英子殿(元本学電気工学科教授故佐瀬正道夫人)から奨学金基金として27,725,065円、高等学校第一部第三期卒業生三俊会からクォーツ掛時計4個、室温計1個。高等学校PTAから昭和62年度入学式典費用補助として30万円。

渡辺貞子殿から贈られた絵画



学園創立百周年記念式典について

昭和62年10月31日、第100回の学園創立記念日に当たり、創立百周年記念講演会、記念式典並びに祝賀パーティーが開催され、来賓、学園関係者多数の参加の下、盛況裡に滞りなく終了した。



- ・記念講演会 10月31日 10時-11時
会場 京王プラザホテル・エミネンスホール
演題 「転機に立つわが母校」
講演者 只野文哉(工手学校大正15年卒、社団法人科学技術と経済の会常務理事)
- ・記念式典 同日同会場 11時15分-12時15分
- ・記念祝賀会 同日 12時30分-14時30分
会場 京王プラザホテル・コンコルドボールルーム

創立百周年記念事業募金申込状況について

昭和63年1月31日現在
申込件数 3,630件
申込金額 235,695千円

大学

昨年の暮れ近くに本学名誉教授の森島恒雄先生が、84年の生涯を終えられた。わたしが初めて先生にお会したのは30年前だったが、50代なかばとはとても見えない若々しさだったことを今もはっきり憶えている。



故・森島恒雄名誉教授

もちろんそうした外見のみならず、先生のお話ぶりには青年のような気概が感じられたと言っても決して誇張に当たらない。先生はその後心身の若さを長く失わなかった。先生の人生は確乎たる信念に貫かれていたのだと思う。そのような先生に身近に接して、わたしは公私ともに実に多くの教えをいただいた。今ふり返ってみながら改めてそのことに深く感謝せずにはおられない。わたしも年齢だけは50代の後半に入ろうとしている。これから先の人生、森島先生のように若さを失わずに歩めるかどうか、少なくとも気持ちだけはそうありたいと願っている。

年が明けると教務部はもう年度末業務で多忙を極める。年度末試験、成績処理、卒業生関係、入試願書の受付と入試の準備、今回はさらに学長改選業務も加わっているから例年以上である。実はこの学長選についてであるが、3年毎とは言え、終えるまで半年以上かかるというのはいかにも長過ぎるのではなからうか。この点だけではなく、現行学長選出規程の再検討が必要のように思われる。

1月下旬のある日、学園として係争中の奇妙な裁判の公判廷に学園側証人として出廷した。わたしにとってはもちろん初体験である。

(小野寺記)

●近況報告

専門学校

62年度春秋の二大行事

第4回球技大会：5月17日八王子校舎において、ソフトボール、バレーボール、卓球、テニス、バドミントン、リレーの6種目をクラス対抗8昼夜間部)で行いました。また今年度からは、これにサッカー、水泳、スキーを加えたものを正課の体育授業(昼間部)として、山梨県の忍野村で夏休みを利用した3泊4日の合宿を行いました。また春休みを利用して菅平スキー場での合宿も実施されます。

第40回製図・作品展：11月21日-23日仮設中庭校舎で開催されました。今年は学園創立百周年行事の一環として、記念パレードなども盛り込まれ、OB企業の出品も花を添えた記念すべき展示会となりました。



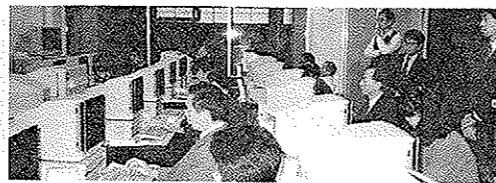
62年度就職状況

景気は内需を中心に回復気味で、560名の求職者に対し、延べ4,042社、6,628人(前年比1%増)の求人がありました。しかし、建築の40%増を除き他分野の退潮が目立ちました。主な就職先は、住友化学工業2人、清水建設23人、三洋電機、三菱レイヨン、鐘紡各1人など資本金100億以上35人、サンケン電気、丸大食品、東洋通信機各1人など10億以上40人、富士通電装、藤森工業、オクト各1人など1億以上143人で、公務員も12人でした。1月末現在で、就職内定者477人中、資本金10億以上の会社が16%、1億以上46%、1億未満51%、公務員等3%の分布となります。

高等学校

パソコン教室の完成

高度情報化社会の中で、遅く生きて行ける人間を育てるべく、昨年10月に、写真のようなパソコン教室が出来ました。人気の高いPC-9801VX21が30台、41が2台、NM9950プリンター8台などが入り、各種ソフトも用意されました。昨年11月に披露を兼ねて、先ず教職員を対象に講習会が開かれました。写真はその時の風景です。目下、3年生の授業とクラブ活動に利用されています。



完成したパソコン教室

野球部の躍進

62年度高校野球秋季東京大会で準決勝に進出、堀越高校に惜敗はしましたが東京代表候補校となり、高校野球マガジンにも東京に新しい風と紹介され、甲子園が近づいて来ることで、部員は意を強くし一層練習に励み、教職員一同も大変気を良くしています。

進学・就職状況

1月末現在の進学決定は、工学院大学124名、東海大、帝京大、国士館大、大正大、大阪経済大に各1名、山梨学院大に3名、工学院大学専門学校に29名、日本工学院、中央工学校などの専門学校に62名。

また、就職については円高不況にも拘らず昨年11月中旬までに希望者42名全員が決定しました。主な就職先は、コニカ、長谷川工務店、東プレ、蛇の目シン、日機装、日本フィルコン、日本ラジエータ、関電工、西武鉄道などです。

●支部だより

昭和62年度支部総会報告

昭和62年度は学園創立100周年という記念すべき年に全国80支部中、26支部に於いて、支部総会が開かれ、延べ500余名の方々が参加され、前年より活発に活動されました。

開催支部は以下の通りです。

- 4月11日 豊島支部(6名)
- 19日 京滋支部(10名)
- 5月10日 栃木県支部(52名)
- 24日 愛知県支部(19名)
- 30日 多摩支部(10名)
- 6月3日 日本電気支部(27名)
- 14日 山形県支部(14名)
- 27日 福島県支部(13名)
- 7月1日 東芝支部(30名)
- 4日 大阪支部(36名)

- 5日 渋谷支部(7名)
- 11日 北海道支部(40名)
- 8月30日 川崎、横浜、相模、湘南、小田原(5支部合同)(34名)
- 9月6日 宮城県支部(13名)
- 26日 兵庫県支部(22名)
- 27日 静岡県支部(東、中央、両支部統合)(57名)
- 10月4日 埼玉県西支部(9名)
- 24日 高知県支部(17名)
- 11月3日 新潟県支部(11名)
- 21日 江東支部(11名)
- 21日 荒川支部(11名)
- 12月5日 中野支部(15名)
- 12日 台東支部(8名)
- 2月20日 富山県支部(33名)
- 21日 青森県支部(17名)

第8回全国大会(富山大会)開催のお知らせ

校友会第8回全国大会が、富山県支部のご協力により、富山市内において右記の日程で開催されます。

この大会は、2年に一度の全国校友の集りでもあります、久しく逢うことのなかった校友との再会をこの機に果し思い出深い大会にしたいと富山県支部では張り切っております。全国の支部・同窓会員お誘い合せの上、一人でも多くの参加をお待ち致しております。また、富山県は、魚の美味、有名温泉が多く、黒部で名高い観光の地でもあります。ご夫妻同伴の旅にも絶好と存じます。

- 記
- 1.開催日 昭和63年7月23日(土)24日(日)
 - 2.会場 富山県富山市桜橋通り 〒930 名鉄トヤマホテル(0764-31-2211)
 - 3.受付 14時、開会 16時
参加会費(一泊) 15,000円
- 詳細は、校友会本部へお問い合わせ下さい。

03(342)2064

尚、全国支部長会議も同日開催を予定しております。

校友会 事業部
富山県支部

●支部だより

■支部総会詳報

62. 5.14 栃木県支部総会（阿久津利支部長）

宇都宮市大通り、ホテルニューイタヤに52名の会員が集い、足立会長が出席して、新宿校地再開発計画について説明し、理解と協力を求めました。

62. 7. 1 東芝職域支部（岩永充三支部長）

本学校友会議室において東芝在職者30名が集い、設立総会が行われ、新しい支部が1つ増えました。

62. 8.30 神奈川5支部総会

川崎、横浜、相模、湘南、小田原の5支部が合同で支部総会を本部会議室に於いて開催しました。

学校法人工学院大学常務理事関谷道雄先生のご出席を戴き、募金活動について協力依頼が行われた。

62. 9.27 静岡県支部総会（山崎弘資支部長）

静岡東支部、静岡中央支部を1つの支部として統合しました。支部活動を行う上で、分割したり、統合したりする事により、活性化の要因になれば良いのではないかと考えています。今年の支部総会では最高の57名が参加しました。（吉岡組織部長、恒松理事出席）

62.11. 3 新潟県支部（谷口宏支部長）

足立会長、南雲事業部長、酒井理事の3名が本部より出席し、63年度の全国大会に就いて協議をしましたが支部有力者が本年相ついで他界し、現役員に拠る開催は難しいとの合意に達しました。

62. 5.24 愛知県支部（鈴木省吾支部長）

名古屋駅前安保ビルに於て開催された。当支部は50年以降毎年総会が開催される活躍支部である。出席者は61年9名だったのが今年は22名に増加した。役員改選時期

であったが支部長等役員は再選された。支部規定には慶弔の項を加えることが提案された。

当支部の顧問村上銀次郎氏（建築大14）の提案による、旧校舎コンクリート片を文鎮として百周年記念品とすることは実施に移された。百周年記念事業についても活発な議論が行われ、支部理事会で今後の対応が協議されることとなった。

今回の出席者は支部長鈴木省吾氏を始めとして約半数が建築科の出身である。本部への要望として、名簿の完備と支部名簿の作成等に本部からの援助が求められた。

62. 9. 6 宮崎県支部（片岡好之助支部長）

宮崎天照閣にて、鹿児島支部長門田見氏の同席の下18名で開かれた。本部からは足立会長も出席し、学園の近況をスライド・パネルで説明を行ない、百周年記念事業への協力の要請を行なった。宮崎支部は昨年再建され、発展途上にある。会員の把握も本部発行の名簿によって新会員を発掘中という所で今後の発展が期待される。尚今回は鹿児島支部の参加を得て有益な支部情報の交換が行われた。特に鹿児島島の無料新聞広告による会員参加要請はユニークで各支部の参考になるかと思われる。又片岡好之助支部長の新宿新校舎が建てられた経緯について第2代学長古市公威先生と日南市出身小林房太郎氏との関係の調査披露があり、一同感銘をうけた。

今後近県支部との交流を深め、支部総会は2年に1回開催の予定とのこと。

62. 9.26 兵庫県支部（岡本耕一支部長）

兵庫県民会館にて、22名で支部総会が開催された。当支部は毎年総会を定期的に開催する最も活性化された支部の一つである。例年の如く学校側から高橋こと子、清水俊先生、大阪支部庭野、近藤正副支部長の列席もみた。本部側からは富所副会長の出席のもと学園近況の説明を行い百周年記念事業への協力を求めた。例年総会を行なっ

ている当支部でも会員の移動は激しく、本部の最近の名簿によって近隣に新しい会員が発掘され、明るい話題を提供している。

支部の会計も充実し、ここ2年連続黒字が続いて健全である。当支部は建築出身の岡本支部長の他、化学系の奥浜氏、岡田氏の有力者を擁し化学の出席者も多い。ガヴリウス・エンジ申井氏（38・電）の企業内でビジネススクールとの積極的タイアップを学園側に求めること、校友宿泊所についての要望等もよせられ、和気藹々のうちに会を終えた。

62.11.21 江東支部（篠原梅吉支部長）

東京サマーサイドホテルにて11名で開催された。当支部は33年設立と歴史は古いが、最近殆んど会合はなかった。百周年の年ということで300人に通知したが、会員は8名の出席と淋しかった。しかし乍ら出席された方達は皆さん会の盛り立てに熱心で色々貴重な意見も出された。ここでも本部からの支部名簿により、思いもかけず同窓が近くの役所にいることを発見され、喜ばれた人もおられた。今後の仕事に役立つことと思う。

本日出席された人、全員に今後地区幹事として活躍をお願いして、63年春には再度全員を召集し総会を開く予定である。

（溝上記）

●今年次の方々が新しい支部長に就任されました
台東・猪股重義 荒川・南貴芳夫 静岡・山崎弘資
福岡・麻生好彦 東芝・岩永充三 豊島・渡辺一男
山形・長岡喜美男 青森・外川謙二

●校友会監事補充について

戸部英瑞監事死去（昭62.9.12）に伴い、寺島敬二（専門金属 135回卒）氏が、昭和63年1月17日の評議員会で選ばれました。

■賛助会費納入のお願い

校友会 会長 足立剛一

本会員の皆様には、校友会事業活動に対し常々御協力御援助を賜り厚く御礼申し上げます。

校友会の活動充実の為の運用資金援助として皆様より賛助会費納入をお願いしておりますが、61年1月の理事会にて規定の一部を改め、より一層の御協力を頂きたく振込用紙を同封いたしましたのでよろしくお願い申し上げます。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせていただきます。

■第8回全国大会(富山大会)参加のお誘い

校友会、第8回全国大会が、本年7月23日（土）に、富山市で開催されます。第1回以来14年を経過しましたが、今回は初めて日本海側で開催とのことで、富山のPRにまたとないチャンスと支部会員は全員はりきっています。

では日本列島のほぼ中央に位置する「いい人いい味いきいき富山」について、概略を紹介します。

●とやまの姿

東は新潟県、長野県に接する北アルプス、南は岐阜県、西は石川県と交わる県境は、中山姓から丘陵性の山地。このように東南西を山に囲まれ、北は富山湾に面する地形の中に富山平野が大きく広がっています。平野には高い山々に端を発する大小さまざまな河川が流れ、豊かで澄んだ水が水田を潤しています。

3000m級の峻険な山岳と日本海が近接する独特の地形は美しい景観をみせ、変化に富んだ自然から山の幸、海の幸などの新鮮な味を生んでいます。

人口112万人、面積4,252km²

●とやまの産業

富山県の豊かな水は、エネルギーとなって、数々の産

●支部だより

業の発展をもたらしました。

農業は米作中心で高いほ場整備率と相まって生産性が高く、おいしいコシヒカリを育てています。

製造業は、アルミ、プラスチック、機械工業など、新技術の開発が行われ、長い歴史をもつ業も伝統を生かしながら近代化の道を進み、いずれもこれからの飛躍が期待されています。

新しい産業は、昭和59年、バイオ、新素材、メカトロニクスを核とした富山テクノポリスの指定を受け、産・学・官が一体となって素材産業からハイテク産業へと、急ピッチで構造転換を進めており、ハイテク産業県をめざしています。

●とやまの味（いゝ味いきいき）

豊かな山野と美しい海に囲まれた富山県は、美味珍味がめじろおし。暖流と寒流が交差する富山湾は、世界的にも有名なホタルイカ・ブリ・ベニズワイガニ・越中バイ・甘エビなど海の幸の宝庫。キトキトの（とれたての新鮮な）刺身の風味はまた格別。

そうして雪どけのおいしい水は、うまい米とうまい酒を作る。たきたてのコシヒカリは天下一品。各地方に伝わる地酒も辛口が多く、通に喜ばれています。

●とやまの観光

「立山・黒部アルペンルート」

日本の屋根、北アルプスを横断し、富山・長野両県を結ぶ国際的な山岳観光ルートです。峻険な峰々、手つかずの自然、そして何よりも雄大なスケール感。展望は第一級の眺め。ケーブルカー・バス・ロープウェイ等乗り継げば黒部ダム。水門からの水が立山連峰をバックに七色の虹をかける壮大さは圧巻です。

●ホタルイカのと蟹気楼

四月から六月にかけ、ホタルイカが産卵のため大群遊をおこします。青緑の宝石を散りばめたような光は、あなたを夢幻の世界へ誘うでしょう。

蟹気楼はドンヨリとした日に、魚津付近でまれに見え

ます。光の屈折によって景色や舟が、変幻自在の映像の変化を見せます。

●黒部峡谷

激流が時をかけて彫りあげた黒部峡谷は、まさに自然の芸術品。谷をぬうように走るトロッコ電車はスリル満点。新緑によし紅葉によし、沿線には露天風呂もあって、自然を心ゆくまで満喫できます。

●五ヶ山

平家の落人、合掌の里五ヶ山は、民謡と伝説の宝庫。合掌造りの家々の多くは民宿を営み、心暖まるもてなしは旅人の心に安らぎを与えます。

●風の盆おわら祭（八尾おわら）

坂の町に流れるもの哀しい音色と流麗な踊りで、全国に知られる八尾町の風の盆おわら祭。二百十日の風が吹く9月1日から3日3晩、八尾の町はおわら一色に染まります。

三味線、太鼓、胡弓の音に合わせて哀調をおびた艶やかな唄声の流れ、黒を基調にした小粋な男舞いの法被、色とりどりの浴衣に足袋の白さが眩しい女舞い、狭い坂道を練り歩く姿は情緒たっぷり。目深いかぶった編笠からこぼれる優しい表情が、艶やかな舞いに一層の趣きをそえます。

胡弓が咽び、風がはやし、風に舞う。その風情は、幻想的な初秋の風物詩。心に響きわたる胡弓の音色や、かん高い唄いだしのおわら節は、日本人の心にぴったり合っており、全国から人気を集めています。

“いゝ人、いゝ味、いきいき富山”へ、なにとぞ、皆様お誘い合わせの上、多数御参加くださるよう、当支部会員全員、心からお待ち致しております。

（富山県支部長 山本 修）



●部会報告

総務部

●昭和62年度の校友会活動を理事会その他の活動を通じて報告します。

第1回理事会（62.4.17）

- 議事 1. 61年度事業報告及び決算承認について
2. 表彰者承認について

第2回臨時理事会（62.7.2）

- 議事 1. 学園創立百周年記念事業募金活動について

第3回理事会（62.9.18）

- 議事 1. 63年度予算編成基本方針について
2. 東芝職域支部結成について

第4回理事会（62.11.13）

- 議事 1. 監事補充評議員会開催について

第5回理事会（63.1.22）

- 議事 1. 63年度事業計画および予算について

●昭和62年度事務報告

1. 会議の開催状況は下記の通り。

評議員会（62.5.24）（63.1.17）

総 会（62.5.24）

支部長会（62.10.31）

理 事 会（5回）

常任理事会（8回）

総務部会（3回）

財務部会（9回）

広報部会（9回）

企画部会（4回）

事業部会（1回）

組織部会（7回）

監 査 会（3回）

学園校友評議員集会（2回）

新年懇親会（63.1.17）

その他、各種委員会等が多数開催された。

財務部

昭和62年度は世界経済史上稀にみる変動の年であった。円高傾向などによる経済不調の年であったが、幸いにも総括的には差程の影響は受けずに、財務部会としても100周年記念に対し、全面的な協力をなした形となった。

長中期財務ビジョン委員会も数度開催し、校友会の過去と現在とくに将来の財務計画を調査検討した。現在のシステムでは学生数の増減が直接校友会の財源に関連していることになっており、その改善策などが問われてい

る。内容からみると現状では学生数増加傾向にあって収入源はここ数年は心配ないものの、それ以後は減少傾向にあり、何がしかの対策を構ることがのぞましいとの意見が出されたが、具体策も出ずに現在に至っている。本年は全国大会が開かれるほか地方支部総会もより活発化するものと考えられ、財務部会としても全面的にバックアップして行くことを願うとともにその盛会となることを祈っている次第である。

企画部

昨年は「工学院大学校友会アンケート」調査を行った。その結果は、別に印刷して発表しますが、校友会員の内、評議員、支部長、賛助会員（一部抽出）の138名を対象

としたアンケートで、今後の校友会の活動の指針の一つとして参考にして頂ければと思っています。

今年の企画部の活動としては、(1)校友会年誌発刊の

● 部会報告

準備、(2)校友会PR用スライド作成(全国大会に使用)を中心に活動してゆきたいと思えます。(1)につきましては、本学園が100年史作成の準備に入っておりますので、校友会の歴史につきまして、自分達の手で一まず編集しておき、それを学園側に提出する予定です。今年はその準備期間として、各種の資料収集編集方針決定を行ないたいと思えます。校友会には現在、各単体同窓会及び、支部がその組織に入っております。そのため、各同窓会及び支部の歴史もそこに盛り込みたいと思えます。ご協

事業部

●昭和63年校友会新年懇親会は新宿校舎3階食堂に於いて催されました。

高山理事長、北郷学長、大学各科主任教授、専門学校長、高等学校長並びに学園理事の諸先生と多数の来賓、校友を迎え盛大に行われました。その数100名を超えるにぎわいでした。

校友会々々の年頭の挨拶及び諸先生の挨拶のあと、足立会長寄贈の四斗樽を、高山、北郷両先生による「鏡割りのセレモニー」があり、つづいて、百周年記念募金に

組織部

●昭和62年度全国支部長会議報告

昭和62年度全国支部長会議は、10月31日創立100周年記念式典のあと本学第1会議室に於いて、北郷学長のご来賓を仰ぎ、本部より足立会長以下17名の役員と、北は北海道から、南は台湾まで全国29支部から正、副支部長41名が出席し、出席者総数59名と盛会の内に活発な活動報告が行われました。

会議は、溝上理事の司会により、吉岡組織部長開会の

力をお願い致します。(2)につきましては、校友会のPRとしては、全国大会及び支部総会開催に当り、学園のPRと共に、校友会のPRも兼ね、簡単に取扱えるスライドとする事に致しました。これは今年の全国大会に間に合う様にしたいと思えます。校友会に対するアンケート調査報告は、会員の皆様にお渡し出来る様、別に用意してありますので、ご希望の方は事務局迄、お申込み下さい。

多額の寄付を寄せられた、東光電気工事(株)代表取締役相談役の杉山 慎氏の元気な音頭で乾杯が行われ、和気藹々の懇親会となりました。

来賓の諸先生方一人一人の紹介や、遠く福島より見られた菊地支部長他多数の校友から挨拶や自己紹介などがあり、宴もたけなわとなり、長老の小野塚理事の中めのあと、草野常務理事の音頭で、校友会パンザイの三唱により、学園第二二期への大いなる期待をこめつつ、三三、五五、散会となりました。

辞足立校友会会長挨拶、北郷学長挨拶に続いて、酒井理事を座長に選出して議事に入りました。台湾の杜瑞昌氏、宮崎の片岡支部長、日本電気の江袋支部長、静岡の山崎支部長、東芝の岩永支部長、福島市の菊地支部長等各氏の支部活動報告が行われました。その後、母校の創立100周年記念事業の募金活動を積極的に推進する事を採択し森山副会長の閉会の辞により散会した事をご報告します。

計 報	新潟県前支部長	大滝広蔵	62.7.15日逝去	元東海支部長	村上銀次郎	62.9.22日逝去
	元	吉田吉平(78歳)	62.7.20日逝去	元八南支部長	海老沢春雄	62.10.6日逝去
	校友会監事	戸部英瑞(84歳)	62.9.12日逝去	大分県支部長	藤井	(89歳)62.12.15日逝去
	相談役	武原虎雄(85歳)	62.9.11日逝去			

● 校友会だより

■ 学園創立百周年記念事業 募金計画について

◇募金目標 総額10億円

◇記念事業計画(詳細は会報108号)

1. 総合工学研究所
2. 記念体育館
3. 教育研究設備
4. 研究奨学基金
5. 学生奨学基金

◇募金の対象別目標額

対 象	目 標 額	対 象	目 標 額
教 職 員	0.3 億円	会 社 ・ 団 体	3.2 億円
校 友	3 億円	篤 志 家 等	0.5 億円
在学中の父母	3 億円	合 計	10 億円

募金期間5年間(昭和62年4月～昭和67年3月)

◇創立百周年記念事業募金に協力を

ご承知のように、去る昭和62年は、工学院大学学園の前身である工手学校が、明治20年に創立されて以来丁度百周年を迎えました。この間母校は、幾多の苦難を乗り越えて今日の発展を迎えました。この記念すべき創立百周年に当って、母校では各種の記念行事を進めております。

校友会といたしましてもこの母校の計画に全面的に協力することが理事会において決議され、母校と一体となって進めております。記念行事の一つに募金活動があります。この募金に校友会として協力し、目標額達成に卒業生各位の絶大なるご支援を賜りますようお願いする次第であります。

◇校友会役員等の募金割当目標額並びに会員の目標額として次のように決めております。

会長 300万円、副会長75万円、常任理事50万円、理事・監事30万円、正副支部長25万円、評議員25万円、学校法人理事・監事150万円及び評議員50万円、会員のうち100万円以上30名、50万円20名、30万円30名、20万円50名、15万円100名、10万円600名、5万円～1万円5000名

◇校友会個人別募金基準額

- ・昭和42年以前卒業生 3万円以上
- ・昭和43年～53年卒業生 2万円以上
- ・昭和54年～63年卒業生 1万円以上

期間は5年間であり毎年基準額をご協力頂ければ目標額達成ができます。

◇募金状況について(昭和63年3月末現在)

過去1年間の校友会各同窓会別募金申込み状況は次のとおりでした。目標額達成まで今年もご協力下さるようお願い申し上げます。

各 同 窓 会	金 額 (円)
機 械 同 窓 会	11,498,000
応 化 会	12,892,000
電 気 同 窓 会	13,080,000
建 築 同 窓 会	13,405,000
高 等 学 校 同 窓 会	7,355,000
専 門 学 校 同 窓 会	9,517,000
合 計	67,747,000

◇受賞について

坂口義雄殿、勲五等瑞宝章(昭和62年4月29日)

●校友会だより

◆顧問および相談役の推薦

昭和62年5月第31回総会において発表 (順不同)

区分	氏名		
顧問	高山 英華	遠藤 鎮雄	伊藤 鄭爾
	小浪 博	北郷 薫	鈴木敬治郎
	岡田 実	鈴木 実	月原 貢
相談役	岩城福三郎	松本 与作	都築 武一
	相沢 包吉	鈴木昇太郎	小林 成一
	只野 文哉	島田 金次	北野 均
	小崎 信邦	北村 菊男	三木 珍治
	浅田鎌太郎	喜多村久雄	角田 孝助
	坂口 義雄	関口 城吉	鈴木 啓之
	落合 康男	武原 虎雄	

◆表彰

昭和62年5月第31回総会において表彰 (順不同)

表彰状贈呈		
月原 貢	都築 武一	鈴木昇太郎
只野 文哉	北野 均	北村 菊男
浅田鎌太郎	角田 孝助	関口 城吉
落合 康男	松本 与作	相沢 包吉
小林 成一	喜多村久雄	鈴木 啓之
間宮富士雄	伊藤 真治	小野塚政雄
篠原 梅吉	金尾 武彦	菊池 誠
戸部 英瑞	八木平八郎	石井 栄善
小浪 博	安原 豊	島田 金次
坂口 義雄	岩城福三郎	武原 虎雄
内山 太	榎本 忠良	小高 鎮夫
感謝状贈呈		
長坂 舜二	田中 博国	後藤弘太郎
宮本 陸一	横山 修一	佐藤 正吾
吉田 清風	伊藤 真治	佐藤 恵治

◆成績優秀学生表彰

校友会では、毎年本学園の成績優秀学生生徒に表彰を行い奨学金を贈与しています。昭和62年度は、第31回総会において表彰を行った。

種別	学 科 学 年	氏 名
大 学 院	機械工学専攻修士課程2年	神戸 悦治
	工業化学専攻博士後期課程1年	河口 和雄
	電気工学専攻修士課程2年	保坂 修治
	建築学専攻修士課程2年	山田 悟
大 学	機械工学科2年	津田 和彦
	"	田中 茂
	"	丹野 一昭
	工業化学2年	田中 治
	化学工学科2年	三保 智昭
	"	松下 純子
学 校	電気工学科電子工学コース3年	能原 隆則
	電子工学科電子工学コース2年	吉野 浩
	" 情報工学コース2年	渡邊 崇
	建築学科2年	石井 雅彦
"	笹尾 直巳	
"	丸山 誠	
高 学 学	普通科3年	小林 論史
	電気科2年	金子 精司
	普通科2年	清水 剛
専 門 学 校	土木科2年	井原 巧
	機械科2年	佐賀野英樹
	建築科2年	秋山 昌也
"	山田 恵子	

社団法人 工学院大学校友会

第43回評議員会 第32回総会 開催のお知らせ

会長 足立 剛一

日 時 昭和63年5月29日(日) 13時~15時

場 所 工学院大学講堂(新館4階)

議 案 (資料参照)

第1号 昭和62年度事業報告並びに収支決算報告承認の件

第2号 昭和62年度財産目録承認の件

◎監査報告

第3号 昭和63年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

(注1) 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答下さい。

(注2) 施行細則第10条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

昭和62年度事業報告書

事業に関する定款条文	事 業 内 容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学園創立100周年記念募金活動に協力した。 2. 学園創立100周年記念募金に1千万円の寄附を行った。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生・生徒の学修援助 各学校毎に優秀な学生を(23名)表彰した。 高校部活動援助を行った。
会誌および学術図書刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会報108号を発行した。 2. 学園コンピューターシステムによる会員名簿の整備。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. (校友 只野文哉氏が学園創立100周年記念式典において講演会を行った。)
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要なる施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 校友会諸設備およびホール設置の促進。 将来校友会館建設のための計画。 2. 新年懇親会を開催した。 3. 支部の支援、支部組織の活性化を図った。 (静岡県支部の合併、青森県支部の結成)
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 新年会、支部総会等で事業所紹介を行った。
その他目的を達成するために必費な事業 (定款第5条第7項)	1. 新宿校地再開発事業に協力した。

昭和62年度収支計算書

昭和62年4月1日より昭和63年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
I 収入の部				企画部費	170,000	151,000	19,000
1 基本財産収入	(300,000)	(468,745)	(168,745)	賛助会費割戻金	1,000,000	962,400	37,600
2 会費収入	(32,539,000)	(32,954,500)	(415,500)	2 運営費	(10,029,000)	(7,466,083)	2,562,917
機械	4,046,000	4,046,000	0	本部会議費	822,000	340,600	481,400
応化会	2,805,000	2,805,000	0	役員交通費	600,000	398,010	201,990
電気	5,053,000	5,053,000	0	旅費交通費	200,000	76,610	123,390
建築	3,861,000	3,861,000	0	通信費	5,632,000	4,233,244	1,398,756
高専	5,393,000	5,567,500	174,500	振替手数料	80,000	40,710	39,290
専門	11,381,000	11,622,000	241,000	事務用品費	715,000	626,804	88,196
3 賛助会費収入	(3,000,000)	(2,727,000)	(△ 273,000)	消耗備品費	50,000	19,000	31,000
賛助会費	3,000,000	2,727,000	(△ 273,000)	印刷製本費	980,000	975,300	4,700
4 事業収入	(100,000)	(33,000)	(△ 67,000)	修繕費	100,000	41,000	59,000
寄附金収入	100,000	33,000	(△ 67,000)	貸借費	150,000	137,600	12,400
5 雑収入	(3,050,000)	(7,394,966)	(4,344,966)	対外費	100,000	69,430	30,570
受取利息	3,000,000	7,123,540	4,123,540	慶弔費	450,000	479,200	(△ 29,200)
雑収入	50,000	271,426	221,426	公租公課	100,000	400	99,600
6 賛助積立取崩収入	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)	雑費	50,000	28,175	21,825
当期収入合計(A)	48,989,000	53,578,211	4,589,211	3 人件費	(7,252,000)	(6,507,780)	(744,220)
前期繰越収支差額	—	7,394,027	—	給与手当	7,102,000	6,366,478	735,522
収入合計(B)	—	60,972,238	—	退職給与引当繰入	100,000	104,052	(△ 4,052)
II 支出の部				福利厚生費	50,000	37,250	12,750
1 事業費	(17,483,000)	(17,085,365)	(397,635)	4 固定資産支出	(200,000)	(156,000)	(44,000)
学園協力費	11,500,000	11,438,900	61,100	5 積立預金支出	(12,000,000)	(12,000,758)	(△ 758)
会報出版費	1,850,000	1,840,000	10,000	会館積立金	10,000,000	10,000,000	0
学生奨励金	500,000	528,000	(△ 28,000)	賛助会費積立金	2,000,000	2,000,758	(△ 758)
支部対策費	1,540,000	1,462,850	77,150	6 予備費	(2,025,000)	(0)	(2,025,000)
総会等大会費	350,000	280,710	69,290	7 基本金組入支出	(3,000,000)	(△ 3,000,000)	—
広報部費	163,000	95,500	67,500	当期支出合計(C)	48,989,000	46,215,986	2,773,014
組織部費	200,000	187,650	12,350	当期収支差額(A)-(C)	—	7,362,225	—
事業部費	210,000	138,355	71,645	次期繰越収支差額(B)-(C)	—	14,756,252	—

(注) △は収入の部は減、支出の部は超過を示す。

貸借対照表

昭和63年3月31日現在 (単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1 流動資産	23,659,650	1 流動負債	49,340
2 固定資産	132,963,656	2 固定負債	80,463,053
		3 正味財産	76,116,913
合計	156,623,306	合計	156,623,306

財産目録

昭和63年3月31日現在 (単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産		負債	
1 現金・預貯金	4,455,844	1 一般預り金	49,340
2 短期有価証券等	19,203,806	2 在学生会費預り金	78,778,500
固定資産		3 退職給与引当金	1,684,533
1 基本財産引当預金	10,000,000	正味財産	76,116,913
2 什器備品	1,329,425		
3 電話加入権	30,000		
4 長期預金	121,604,231		
合計	156,623,306	合計	156,623,306

昭和63年度事業計画(案)

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する。 2. 学園将来計画に協力する。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰する。
会誌および学術図書(の刊行) (定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会や見学会を開催する。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 全国大会の開催、新年懇親会等の開催。 2. 支部の支援、支部組織の活性化を図る。 3. 将来校友会館を建設するための具体的計画を促進し実行するよう努力する。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等を行なう。
その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学校法人工学院大学創立百周年記念募金に協力する。

昭和63年度収支予算書(案)

昭和63年4月1日から昭和64年3月31日まで

(単位千円 △印は前年度より減を示す)

科目	予算額	前年度予算額	増減	科目	予算額	前年度予算額	増減
1 収入の部				役員交通費	600	600	0
基本財産収入	450	300	150	旅費交通費	200	200	0
会費収入(6単体)	33,650	32,544	1,106	通信費	4,861	5,632	(△ 771)
賛助会費収入	2,500	3,000	(△ 500)	振替手数料	80	80	0
事業収入	100	100	0	事務用品費	770	715	55
雑収入	3,050	3,050	0	消耗備品費	50	50	0
賛助会費積立取崩収入	0	10,000	(△ 10,000)	印刷製本費	980	980	0
当期収入合計	39,750	48,994	(△ 9,244)	修繕費	100	100	0
前期末繰越収入合計	7,394	—	7,394	貸借費	140	150	(△ 10)
収入合計	47,144	48,994	(△ 1,850)	対外費	100	100	0
2 支出の部				慶弔費	500	450	50
● 事業費	(8,810)	(17,483)	(△ 8,673)	公租公課	100	100	0
学園協力費	1,500	11,500	(△ 10,000)	雑費	50	50	0
会報・出版費	1,850	1,850	0	● 人件費	(7,502)	(7,252)	(250)
学生・生徒奨励金	500	500	0	給与・手当	7,152	7,102	50
支部対策費	1,860	1,540	320	退職給与引当繰入	300	100	200
総会等大会費	1,080	350	730	福利厚生費	50	50	0
広報部費	160	163	(△ 3)	● 固定資産取得支出	(0)	(200)	(△ 200)
組織部費	200	200	0	● 積立預金	(11,800)	(12,000)	(△ 200)
事業部費	410	210	200	積立金	10,300	10,000	300
企画部費	250	170	80	賛助会費積立金	1,500	2,000	(△ 500)
賛助会費割戻金	1,000	1,000	0	● 予備費	(2,453)	(2,030)	(423)
● 運営費	(9,185)	(10,029)	(△ 844)	当期支出合計	39,750	48,994	(△ 9,244)
本部会議費	654	822	(△ 168)	次期繰越収支差額	7,394	—	7,394
				支出合計	47,144	48,994	(△ 1,850)



工学院大学八王子校舎実験廃水処理施設

●大学棟(29階)建設中

- ①新館(新宿校舎)
- ②本館(新宿校舎)
- ③南館(新宿校舎)
- ④第一生命ビル
- ⑤日本生命ビル
- ⑥新宿区立教育センター
(淀橋第二小跡)
- ⑦新宿郵便局(改築中)
- ⑧京王プラザホテル
- ⑨新宿センタービル

